

6. 障がいのある学生がボランティアを通じて 社会参加への可能性を見つける

グループ名 北河内ボランティアセンター青年部

代 表 者 佐野武尊

活動の動機

障がいのある若い人達が、自分の居場所や可能性を見つけるために活動希望でボランティアセンターに来られるケースが増えている。しかし、活動先を紹介できないことが多いと聞く。

また、発達障がいを含むコミュニケーションが苦手な青少年が社会と繋がる場面がないと、地域にある専修学校(療育手帳を持つ学生が多く在籍する)の先生から相談を受けた。社会に出る前に学校以外で他者との関わりの中から、仲間意識や助け合いなどの体験を通しコミュニケーション能力を培っていく。任された仕事をやり遂げた達成感や自己の可能性を見出し、社会参加する自信に繋がるように企画した。

活動計画

- ・コミュニケーションが苦手な学生達が動物にふれあうことの出来る施設を訪問し、日常と違う環境での体験を通じて社会参加やコミュニケーションの能力の向上を図る。
- ・同じ障がいのある小学生と遊びを通じて、事故のないように配慮をするなど責任感を培う。

①対象者 発達障がいを含むコミュニケーションが苦手な学生

②実施時期 ・12月中旬×2回

・7月下旬×2回

活動について

実施月日	施設名	参加人数	スタッフ人数
12月15日	セルプわらしべ	5人	3人
12月18日	セルプわらしべ	5人	3人

※セルプわらしべは、知的障がい者の通所施設として運営されている施設で、軽作業や清掃作業、園芸作業など様々な活動をされています。

「馬舎にて」

活動前に施設にいる馬の事やこれから行う活動の内容などオリエンテーションがあり、その後職員さんに連れられて厩舎へ向かった。

挨拶がわりのブラッシング。慣れた手つきの利用者さんをお手本に、ブラッシングをし、きれいに毛並みを整えていった。また馬体チェックとして、フンの色や固さや、水やエサの減り具合などをチェックした。

厩舎の掃除では午前におしっこで湿ったワラを外に出して干す作業と、床に落ちているフンを片付け、昼からは干したワラを厩舎に戻す作業をした。フォーク型の大きな道具を使ってワラを持ち上げたり、一輪車に乗せて運ぶ普段は体験できない力仕事にも積極的に関わる事ができた。また配合に気を配りつつエサ作りも体験できた。馬のことを考えながら、そして作業をともにしている仲間との協調を図りながら、学校では体験できない活動ができたと感じた。



「園芸では」

病院に提供する花の植え替え作業をした。プランターに土を入れ、患者さんが癒されるように、他のプランターから花を植え替えた。



無事、2日間のプログラムが終了し、最後に施設のメンバーから「みんなとても頑張ってくれました。また来てください。」と嬉しい言葉があった。寒い中での活動は大変だったと思うが、施設の配慮のおかげで楽しく安全に活動ができ、参加者たちは達成感と充実した顔でとても輝いていた。

実施月日	施設名	参加人数	協力児人数	スタッフ人数
7月23日	牧野生涯学習市民センター	4人	4人	14人
7月24日	大型児童館ビッグバン	5人	5人	16人

7月23日「参加者説明会&室内レク」

参加者説明会では、「ボランティアとは」の講義を受けた後、1日の流れとペアになる子ども(障がい児)について説明や諸注意を行なった。

子どもとペアリングの後は、工作やダンス、ゲームなどを楽しみ、おやつ作りもした。始めは緊張からか声かけも出来ず、ただ手をつないでいるだけで必死の様子であったが、レクリエーションが進むにつれ、だんだんとお互いに笑顔が見られるようになっていった。おやつ作り(パフェ)では、ちゃんと子どもを見守りサポートすることが出来、自信につながったのではないかと感じた。



7月24日「遠足」

大型児童館ビッグバン(堺市南区茶山台)に遠足に行った。5組のうち4組は前日と同じペアなので、安心した顔がみられた。集合時には子ども達の方から手をつなぎに来てくれて参加者は嬉しそうな顔をしていた。今回は遊具などで身体を動かす事が多いので、スムーズに子どもと関わることが出来ていた。また、思ったより早く施設に到着し急に予定の変更もあったが、落ち着いて対処していました。



2日間を通じて、受身で子どもと接していたのが時間の経過とともに少しずつではあるが、積極的になっていった。同じ障がいをもつ子ども達に対して理解を深め、責任ある行動がとれたと感じた。これは学校のなかでは絶対に学ぶ事の出来ない経験が出来たと思う。また2日間とも多くのサポートスタッフがついて、全工程に対し安全な進行に配慮し、事故なく進行することが出来た。

今後について

ボランティアセンターの中で様々な人と関わりを持つ中で、障がいを持つ人のボランティア活動先が少ないと感じていた。また、障がい者自身も対外的な活動を望むことがあまりなく、学生がボランティアに前向きになれるようなきっかけ作りができればと考えていた。そして計画はしたものの、予算の都合上で行動に移すことができなかったが、今回この助成金をいただいたことでセミナーを開催する事ができた。

今後も、様々な障がいに対して関わりをもって活動していきたい。

決算報告

収入		
大同生命厚生事業団助成金		100,000 円
支出		
セルフわらし べ	謝礼	10,000 円
	昼食代	4,200 円
	交通費 当日タクシー代 (ジャンボタクシー) 事前打ち合わせバス代 2名 当日スタッフ交通費 (6名分)	25,320 円 840 円 6,000 円
牧野生涯学習 市民センター	施設部屋代 (ホール・料理室)	3,750 円
	講師謝礼	5,000 円
	おやつ作り材料・工作材料費	13,552 円
	当日スタッフ交通費 (14名分)	14,000 円
ビックバン	交通費 (高速代・駐車場代) (1台 福祉バスを利用…無料・1台 スタッフ自家用車)	8,680 円 14,800 円
	入場料	4,532 円
	バス中オリエンテーション (おやつ代・ビンゴ景品)	16,000 円
	当日スタッフ交通費 (16名分)	
	支出合計	126,674 円